

勝央美術文学館が顕彰する

作家 岡本綺堂と出版人 岡本経一 略歴

岡本綺堂（一八七二—一九三九）

岡本（森部）経一（二九〇九—二〇一〇）

一八七二年東京・高輪生まれ。本名敬二。幼い頃から漢詩や英語を学び、中学在学中に劇作家を志す。一八九〇年、新聞社に入社。記者の傍ら劇評も担当した。一九〇八年、二代目市川左團次の一座に「維新前後」を執筆。以降、左團次に多くの戯曲を書き、『半七捕物帳』・『青蛙堂鬼談』など、推理物・怪奇物も長く読まれている。後進の劇作家を育てるため、一九三〇年、雑誌『舞臺』（ぶたい）を創刊。門下には大村嘉代子、額田六福、北條秀司ら多くの作家が出ている。

勝央町出身の出版人 岡本経一は養嗣子。
一九三九年逝去。

岡山県勝田郡勝央町出身。一九二五（大正一四）年より岡本綺堂家の書生を務め、後に岡本綺堂家の養嗣子となる。太平洋戦争後、出版社 青蛙房（せいあぼう）を立ち上げ、綺堂作品や江戸風俗研究に関連する出版に注力した。

第十五回菊池寛賞と第二十四回長谷川伸賞を受賞。二〇一〇年逝去。